

## 神奈川KB野球連盟

# 大会特別規定

この規定を順守徹底するよう、代表者(団長)及び監督は責任者として心得ること。

1. チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。但し、交通事情により到着遅延については、大会本部で協議して決定する。
2. 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は、前試合の4回終了後とし、当該チームに連戦のチームがある場合は、前試合終了15分後とする。各チームの監督及び主将は、メンバー用紙を4通持参し、本部に提出のこと。攻守決定はじゃんけんにて行う。
3. スコアラーを1名ベンチ入りさせることができる。中学生又はチームスタッフとする。※規定19参照
4. 全試合7イニング(90分以内)とし、得点差によるコールドゲームを適用する(5回7点差)。但し、試合成立は5回とし、暗黒、降雨、雷などによるコールドゲームは成立する。なお、天候・ケガによる中断があった場合は、本部席の判断によりロスタイムとする。また、90分の計測は本部席の時計を基準とする。
5. **【暗黒・降雨・雷などで試合が途中で中止となった場合】**
  - ・5回以内で中止となった場合…翌日の第1試合に先立ってサスペンデットゲーム(継続試合)を行う。但し、決勝戦においては再試合とする。
  - ・5回を終了して中止となった場合…試合成立(決勝戦も含む)。同点の場合はサスペンデットゲームとする。
6. ベンチは、トーナメント表の若番(左側)のチームを1塁側とする。
7. シートノックは後攻より行い5分以内とする。但し、状況によって短縮、省略することもある。シートノックは参加登録者のみで行う。補助員は5名以内でヘルメット着用のこと。
8. ノッカーは選手と同じユニフォームを着用すること。
9. グランド内での練習は、ダイヤモンド外で行うこと(シートノックは除く)。
10. バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。
11. 事故防止のために、捕手はマスク、レガーズ、ヘルメット、プロテクター、セイフティーカップ(男子)、スロートガードを必ず着用すること。また、打者・走者・ベースコーチ・次打者はヘルメットを必ず着用すること。すべて両側にイヤーフラップのついたものとする。※軟式用可(ランナーコーチに限り同一色でなくても可とする。)
12. 突発事故が起きた場合に、審判団が必要と認めた場合、臨時代走を許可する。(臨時走者は、投手・捕手を除く打順前位の者とする。)
13. 天候等(降雨・雷・強風等)によって、試合の進行を中断することが出来る。
14. 選手交代の申し出は監督が行う。
15. ルール上の抗議に対しては、監督が直接審判に質問することが出来る。
16. 野球規則3・03原注(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許されない)と野球規則8・06(1イニングに投手へのアドバイスのためのタイムが2回取られた場合、自動的に投手交代となる。)は本大会でも適用する。

### 【タイムの回数について】

- ・選手へのアドバイスのための1試合においてとれるタイムの回数は7イニングで3回とする。特別延長からは2イニングに1回とする。
- 17. 投手は1日7イニングまで投球できるものとする(特別延長はこの限りではない)。
- 18. 延長戦は行わず、特別延長戦(タイブレイク方式)を採用する。

### 【特別延長戦】(タイブレイク方式)

- ① 7回終了もしくは90分を超えた回の裏の攻撃が終了した時点で、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は一死満塁の状態から行うこととする。
- ② 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順(継続打順)の者とする。

- ③ この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が1塁走者、1塁走者の前の打者が2塁走者、2塁走者の前の打者が3塁走者となる。
  - ④ この場合の代打及び代走は認められる。
  - ⑤ 勝敗が決しない場合には以後継続打順でこれを繰り返す。(2回まで)
19. 選手・監督・コーチは同一のユニフォームで背番号をつけること(監督30番、コーチ28・29番とする)。アンダーシャツ、ストッキング、ベルトも同一色で統一すること。但し、スパイク・シューズについてはその限りでない。
20. ベンチへ入る代表者(団長)1名は、襟付きシャツにチノパン等代表者(団長)としてふさわしい服装もしくは背番号のないユニフォームを着用する。スコアラーでベンチへ入るチームスタッフは平服またはスポーツウェア着用とする。
21. 監督・コーチはコーチボックスに立つ事が許される。
22. バットは、軟式用・硬式用・ローバウンドボール用の金属バット及び木製バットが使用できる。したがって複合バット(TPXカタリスト等のハーフ&ハーフ構造のバット)および金属素材以外のバットは使用できない。使用したことが発覚した場合、三振アウトとなるとする。

## 競技場の注意事項

1. 天候による大会実施の可否については各チームに大会本部より連絡する(試合開始60分前を目途)。
2. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチはすみやかに所定の位置に着くこと。
3. 打者はみだりに打者席を外さない事。監督、コーチのサインは打者席から見る事。
4. 無用なタイムは慎み、試合進行に協力すること。
5. テーピングは投手の指先は禁止、その他については審判団の判断に従うこと。
6. ファールボールの処理は、両チームが行う。審判へのボール渡し等のボールボーイの役割は、原則として当日一塁側ベンチのチームが行う。
7. 本塁打を打った打者に握手やハイタッチ等を求めるためにグラウンドを出てはいけない。
8. メガホンは監督、コーチのみが使用する事が出来る。
9. 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんで行い、次の試合のために速やかにベンチを空ける事。
10. 試合後のグラウンド整備は両チームが行う。
11. 応援団は次の禁止事項を守ること。これについては監督、コーチが責任を持って事前に指導する事。
  - ① 紙吹雪、紙テープ、個人名の入った幟(のぼり)などの使用。
  - ② 「野次」(過度な応援)など相手に不利になるような言動。
  - ③ 応援席のゴミの放置(チームが責任をもって処理すること)
  - ④ 鳴り物(太鼓やラッパなどの音の出るもの)を使用する応援、及び道具を使用する応援。
12. ノッカーは選手と同じユニフォームを着用する事。
13. ユニフォームの着用が乱れた状態では競技に支障をきたし、なおかつ怪我に繋がることから、指導者は十分に指導徹底する事。
14. 試合間隔は20分を目安としているが、準備が出来次第、ゲームを開始する。
15. 次試合の先発投手に限り、5回終了後もしくは試合開始より1時間経過後、ブルペンを使用することができる。
16. サングラスの使用は、野手が眩しくてプレイに支障が出る場合や、疾病等のやむを得ない場合は審判団に申し出て使用を許可する。但し、ミラーコーティングされたレンズは許可しない。